

本科講座 36

勘定の締め切り 2

ねらい 損益計算書科目の勘定の締め切りについて学習する。

ここでは先程説明した損益勘定を使って利益を確定する方法を学習しましょう。

損益勘定を使用して利益を確定するには以下の方法で行います。

1. 収益・費用科目の借方と貸方の合計金額からその残高を計算します。
2. 損益勘定を使用して各勘定の借方合計と貸方合計を合わせます。
3. 損益勘定の総勘定元帳があると想定して作成する。そうするとすべての収益科目と費用科目の残高が損益勘定に集合されることとなります。
4. この損益勘定の借方金額の合計額と貸方金額の合計額の差額が当期純利益（当期純損失）となります。

損益の勘定を使用している帳簿の締めは実際に試すと理解が深まります。次の問題を考えてみましょう。

例 1 決算終了時に各勘定科目が次のようになった時に各勘定科目を締めなさい。

現金	売掛金
72000   42000	56000   11000
繰越商品	備品
43000	16500
買掛金	資本金
30000   90000	1000   50000
売上	仕入
11000   108000	70000   4000
支払家賃	雑費
2500	3000

現金	売掛金
72000   42000	56000   11000
	次期繰越 45000
繰越商品	備品
43000   次期繰越 43000	16500   次期繰越 16500
買掛金	資本金
30000   90000	1000   50000
次期繰越 60000	次期繰越 49000
売上	仕入
11000   108000	70000   4000
損益 97000	損益 66000
支払家賃	雑費
2500   損益 2500	3000   損益 3000

次に損益勘定の総勘定元帳を作成すると考えます。つまり下の図に数字を記入すればよいのです。

損益	

そうすると次のようになります。

損益	
仕入 66000	売上 97000
支払家賃 2500	
雑費 3000	

この損益勘定

の借方と貸方の差が利益となります。貸方 > 借方ならば純利益、貸方 < 借方ならば純損失となります。上記の場合は 25500 円の利益となります。

このように損益計算書の勘定科目も全て勘定の締め切りを行います。その後、損益勘定の総勘定元帳を作成します。（厳密には損益勘定の総勘定元帳は存在しません。）そうすると、借方残高と貸方残高の差が生じますが、その差によって利益が確定します。損益勘定の残高が貸方にあるときは、純利益を表します。また、損益勘定が借方にあるときは純損失を表します。

「本科講座 35」で説明したように、簿記 3 級では最終的に利益は全て資本金勘定となります。簿記 3 級ではこの最終的な利益が資本金に組み込むことが必要となります。ですので資本金に組み込む仕訳は以下のようになります。

（借方）損益 25,500 （貸方）資本金 25,500

となるのです。

損益計算書科目（収益・費用）の締め切り方法

1. 収益・費用科目の借方と貸方の合計金額からその残高を計算します。
2. 損益勘定を使用して各勘定の借方合計と貸方合計を合わせます。
3. 損益勘定の総勘定元帳を作成する。そうするとすべての収益科目と費用科目の残高が損益勘定に集合されることとなります。
4. この損益勘定の借方金額の合計額と貸方金額の合計額の差額が当期純利益（当期純損失）となります。
5. 損益勘定の残高を資本金勘定に振替 損益勘定の残高を次の仕訳で資本金勘定に振り替えます。

帳簿を締め切ると、損益計算書科目の当期の金額はすべて損益勘定に集計され、次期は 0 から始まります。それに対して、貸借対照表科目の当期の金額は残高が次期に繰り越され、次期は前期繰越の金額から始まります。まとめると次のようになります。

損益計算書科目 全て損益勘定科目に集計 次期繰越金はない 次期残高は 0 から始まる。  
貸借対照表科目 残高は次期繰り越し 次期は前期繰越からはじまります。